

幸せな贈り物

ある結婚情報会社の職業別等級

- 男**
- 1 等級ソウル大法科出身判事
  - 2 等級ソウル大出身検事/ソウル大出身行政試験財経職合格者/5大弁護士会の弁護士
  - 3 等級ソウル大医学部出身医師/非ソウル大出身行政試験財経職合格者/大型弁護士会の弁護士
  - 4 等級行政試験一般行政合格者/外交官試験合格者/立法試験合格者/司法研修院 500 等以下弁護士会の弁護士/医師 A 級/外国系投資銀行入社者
  - 5 等級大病院医師(メジャー医大出身/外国系企業入社者/金融圏公企業)
  - 6 等級医師 B 級/弁護士 B 級/薬剤師 A 級
  - 7 等級検察・国家情報院・国税庁 7 級合格者/公認会計士上位圏/警察隊出身警察幹部
  - 8 等級メジャー9 企業入社者/7 級合格(地方職)/公認会計士中位圏/薬剤師 B 級/税理士/保険計理士
  - 9 等級名門大卒業+20 代大企業入社者/メジャー都市銀行入社者
  - 10 等級裁判所・検察・国税庁・ソウル市 9 級合格者/非メジャー都市銀行入社者/メジャー公団入社者
  - 11 等級高等学校教師/50 大企業入社者/証券会社営業職、保険営業管理職/デザイナー
  - 12 等級中学校教師/100 大企業入社者/製薬営業職/公認仲介士/小規模事業運営者
  - 13 等級小学校教師/大企業入社者/9 級合格者/マイナー公団入社者
  - 14 等級一般企業入社者/教程職公務員/消防職公務員/幼稚園教師
  - 15 等級一般中小企業正規職入社者

- 女**
- 1 等級親が将来高級公務員・国会議員・自治団体長/親の財産 1000 億ウォン以上 企業家/親がカンナム大病院長/親が長次官級判事、検事
  - 2 等級親が 1 級公務員/親の財産 500 億ウォン以上企業家(非企業家は該当事項ではない)
  - 3 等級親が 2 級以上高位公務員、地方機関長/親が国内 3 大メジャー大学正教授/親の財産 100 億~500 億ウォン 非事業家
  - 4 等級スター級芸能人/メジャー報道機関アナウンサー/ミス 코리아 大会以上入賞者
  - 5 等級非スター級芸能人/非メジャー報道機関アナウンサー/ミス 코리아 大会未入賞者
  - 6 等級専門職 A-メジャー弁護士会弁護士、医師、薬剤師、判事
  - 7 等級専門職 e-デザイナー、教授、専門経営者、ベンチャー事業
  - 8 等級国外有名メジャー企業入社者/行政高等試験合格者
  - 9 等級国内有名メジャー企業入社者/国策銀行入社者
  - 10 等級小中高教師/7 級公務員合格者(地方職)/メジャー銀行、証券会社入社者
  - 11 等級専門職 C-薬剤師 B、医師 B
  - 12 等級 9 級公務員合格者/企業入社者
  - 13 等級 7 級公務員合格者(中央職、検察、国家情報院)
  - 14 等級中小企業入社者およびその他非正規職
  - 15 等級無職

## 結婚情報会社の人間等級

は、結婚は現実だから、もう一度考えなさいという人生の先輩たちの助言が圧倒的に多いです。ある結婚情報会社のカップルマネージャーは「最近になって、相手の男性と結婚するのではなくその親と結婚しようとするような感じがするほど、背景にとらわれすぎる女性が大きく増えた」と「今から稼いでも、どれくらい稼げるのか。親から受け継ぐのがずっと早い道」という話をよく聞くと言いました。生涯の職場という概念が消えた韓国社会で、安定した資産を持った人が 1 位の新郎予定者、新婦予定者に数えられています。韓国結婚文化研究所のファン・ソヨン研究員は「このごろの男女は、結婚をしなければしないと、目の高さを低めようと思わない」と「結婚を通じて階層上昇はできなくとも下降はないということ」と説明しました。結婚情報会社を通じて形成された結婚市場には「階級」が確かに存在していて、出身大学と学位、居住地、職業が階級を決める核心要素になっています。そのような中で、結婚情報会社の人間等級の中で「ソウル大学法学部出身判事」が 1 等級で現われて、現代版カースト制度という非難の声があがっています。

ところで、もう一方で聞こえてくるニュースも私たちを驚かせます。2010 年 7 月 31 日、大邱地方法院部長判事 A さん(49)は「愛している。すまない。子どもたちをよろしく」という内容の遺書を奥さんに残して、自分のアパートの屋上から飛びおり自殺をしました。警察は、A 判事が 3 年前からうつ病を病んでいて、昨年 1 年間、休職しながら治療を受け、今年 1 月に復職したと明らかにしました。彼は 2009 年 12 月 3 日にインターネットに文章を残しています。

### 結婚対象第 1 順位の「判事」その虚と実

1950 年代はどんな人かもよく分からないままで結婚式をして、1970 年代は親戚の紹介で見合い結婚をし、1980 年代はキャンパスカップルで会って家庭を成しました。しかし、2000 年代に入ってから、結婚情報会社を通じて新郎新婦のスペック(pec: 資格条件)をき帳面に計算したあとで結婚するという事です。インターネットの女性コミュニティ掲示板に「ボーイフレンドが貧しいのに結婚しても良いでしょうか?」という切実な質問がたまに上って来れば、愛しているなら結婚しなさいという返事より

「判事…、もちろんすべての人々がうらやむ職業ですよ。世間の冗談で、医師は奥さんと子たちが喜び、検事は親戚たちが喜び、判事はただ自分自身だけが喜ぶと言うのですよ。はたしてそうでしょうか。判事と言っても、それなりの哀楽や職業病があるのではないのでしょうか。よく考えてみましょう…。

基本的に、判事は生産的な職業ではありません。卑劣な言葉で話せば、世の中の人々が吐いたものとか、排泄した品物を片付ける、ごみ掃除のような役目を担当すると言っても過言ではありません。

また、判事は万能ではないのです。すべての裁判事件において、真実を知る人は判事ではなく、当事者本人たちです。自分たちが一番よく知っているのに、どうして私たち判事たちに判断をしてくれとせがむのか、裁判をしてみれば、本当に情けない考えが自然に浮かんできます…。

また、判事は疑心職業であり、判事たちはみんな心の中に秤をつけて生きている人々です。民事事件においては、双方が嘘をつく原告と被告を、刑事事件においては有罪だと強弁する検事と、無罪だと言い張る被告人のすべてを疑わなければならない職業です(ひたすら依頼人の言葉をそのまま信じて、それが事実でなくても、間で推し進めるだけの弁護士とは完全に違うでしょう)。

このような疑心と心の秤が法廷だけでなら幸いなのですが、社会生活で、対人関係で、家族関係でも急に現われて、あるときは妻と親のことばさえ疑ったりするのです。まことに情けなくてみじめな職業病です…。同時に、判事という職業は原告と被告、検事と被告人のすべてを満足させる裁判をすることが不可能だという点を見逃すことができません。勝った原告は当たり前なことで勝ったとか、また、勝てなかったとか、負けた被告は勝つはずなのに判事の誤った判断で負けたと不満を吐露します。検事と被告人の場合も同じですよ。そして、他の職業とは違って、判事は上がれば上がるほど、すなわち、昇進すればするほど、業務の量がもっと多くなる、まことに不思議な職業です。

最高裁判事の事務室を訪問してみてください。リビングルームのソファにまで訴訟記録がいっぱいになっています。老眼でぼんやりした目をこすりながら、最高裁判官たちは夜更かしして、事件記録と取り組みます。ただ名誉一つのために、つらい精神的、肉体的労働を甘受するのです。

皆さん、それでも子どもたちに判事をさせますか。私は私の子ども達に対しては判事になることを強要しません。ただ自分が願う生産的なことをしながら暮すように願うだけです。しかしですね。私は判事になったことを後悔しません。してみたらジレンマと職業病を経験することはするのですが、まことにやりがいがある仕事も多かったのですよ…」

法曹界では今度の事件はすでに予見された事だったと明らかにしました。法律新聞によれば、全国の

法官の数が 2,500 人あまりに迫っていて、判事 1 人当りの事件負担が年間 1,000 件に迫るほどに過重になって、このような事件が再発する可能性はもっと大きくなっているということです。これによって、法曹界では「今でも法院が判事に定期的に心理相談など精神と診療を受けるようにするといった積極的な措置をして、判事を保護しなければならない」という主張が強く起きています。ソウル高裁のある部長判事は「少なくとも、判事を任用して 10 年ごとに再採用する時は、精神と専門医の鑑定書を義務的に提出させる処置が必要だ」と言って「またすべての法官が 2 年ごとに健康検診を受けるときに精神と診療も一緒に受けて、これに対する費用を国家が負担するようにして、強制的にでも定期的に検診を受けるようにする必要がある」と強調しました。

「今、私は、私と一緒に話せない苦しんでいる法曹人と後輩たちを理解して助けながら生きて行っています」と告白した現職部長判事の言葉が、その世界の虚と実を語っているようで、ほろ苦さを消すことができません。ますます孤独になる判事たち、脱出口はないのでしょうか。

**どうして、イエスを信じなければならないのでしょうか。** 聖書で言う救いは人間自ら解決することができない問題から解放されることです。過去のすべての罪と咎、運命、運勢から解放されることです。また、現在、起きている理解することができない問題、繰り返す個人と家庭の苦しい問題が解決されることです。そして、神様の子どもになって、この世を離れる日、永遠な天国に行く未来(来世)問題まで解決されるのです。

その道がまさにイエス・キリストだと聖書はあかしています。イエス・キリストの十字架の死と復活は、人間のすべての運命と呪いとサタンの権威をうち破って、人間のすべての問題を解決したことを確証してくれる地上最大のうれしい知らせ(福音)です。

「イエス・キリスト」この方が人生の主人になるとき、はじめて渴くことがない真の自由、真の幸せがあなたの人生の中に位置づくようになるでしょう。選択は瞬間ですが、その結果は永遠な神様の約束であり、保障です。

**「主イエスを信じれば救われます。  
あなたはたいせつな人です！」**

## もしかして、このように信じて おられるのではないですか

アメリカのクリスチャン作家であるジェイムズ・ドブソンは「神様どうしてこんな事が」という本を書いたのですが、もともとこの本のタイトルは“God makes sense even when He doesn't make sense”(神様は理解できないこと、それ自体がすなわち理解ができることだ)です。その本の中に真の信仰が何なのかを考えるようにしてくれる文章があります。

「ある若者が一人きりの旅行の中で、とても高い山頂の崖から滑って小さな木の枝の端を握るようになった。彼は踏ん張ってまた頂上に這い上がろうと思ったが、力はますます抜けて行った。握っていた木の枝さえ滑りはじめ、ますます彼を深い谷底に落ちて行くようにした。その所には、彼が頼る何も他のものがなかった。彼は切に祈り始めた。『神様、助けてください。私を生かしてください！』神様の御声が聞こえ始めた。『子よ、わたしはあなたの神だ。わたしがあなたを助けてあげるよ』『神様！はやく私を救ってください！』『そう、はやくその握っている枝を放しなさい。そうすれば、私が御使いにあなたが地に落ちないように、あなたを下で支えさせよう』『神様、私にこの握っているものを放せですって？神様、助けてください』『いや、子よ！あなたが握っているその枝を放しなさいと言うのに！』『これ、私のいのちをつないでいる、これを放すのですか？』若者は谷底を眺めた。彼は握っているものを放すことができなかった。その枝をもっとしっかりと握りながら、彼はこのような大声を出した。『ここに神様でなくて、私を助けてくれる人は他にいないのですか？』」

聖書は「信仰は望んでいる事からを保証し、目に見えないものを確信させるものです」とおっしゃいます。信仰は神様を頼ることです。どのようにして、神様を信じて頼ることができるのでしょうか。それができるようにする信仰の内容がまさに「福音、イエス・キリスト」です。このイエス・キリストがこの世に來られて三つの事をされました。

1. 私たちの力では絶対に神様に会うことができないから、神様が道を開いてくださいました(ヨハネの福音書 14:6)。それでイエス様は真の預言者です。
2. 罪と呪い、過去と現在、未来の問題まで完全に解決してくださいました(マルコ 10:45)。それで、イエス様は真の祭司です。
3. この地球上の敵、悪魔の勢力をふみ砕かれました(ヨハネの手紙第一 3:8)。それで、イエス様は真の王です。

まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことなく、死からいのちに移っているのです。(ヨハネの福音書 5:24)

### 神様の子ども 毎日の祈り

愛の父なる神様、私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。

イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。

いま、私の中に来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。

イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

### 神様の子ども 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せ、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



イラスト\_シン・チョンウン

# 賭博

## しないで ください

このごろ  
の携帯電話

であるアイホンのアプリケーションの中に「梯子」というのがあるのだが、ダウンロードして、横の知人たちとかけをした。軍隊生活をしていたとき、退屈ならば梯子乗りを通じて P. X. (軍人の免税コンビニ) に出入りした昔を思い出したりするけれども、内心では今回の機会に友だちが買ってくれるアイスクリームを試食してみようという心が動いて、3人を誘って始めたが、惜しいことに、結果は私が一番高いお金を出してしまった。このように、楽しさでするゲームでも人々はかんたんに偶然に手に入る幸運を求めて行く。

人々の普遍的な一日の開始は、選択で出発する。起きるべきなのか、起きないでいようから、どんな服を着て出ようかなど、無意識に行動するようだが、多くの選択の前に私たちは置かれている。その中でたまには、これなのかあれなのかという間で偶然と確率を通じる判断が偶然の幸運を願う心を誘発したりする。こんなご利益を求める心が、勇氣ある幸運を求める心にまで育つと、結局は、自分ではどうしようもなくなる賭博にまで進むようにさせる。賭博をする人々の心理は、小さな金額を出して、多額のお金を得る方法の選択だから、自分たちこそ最高の経済原理にしたがって、最小の努力で最高の価値を新たに作ることだと詭弁を並べる。

韓国は盆や正月になれば楽しみの一つでゴーストアップ(韓国での花札)をするのに、ここで少しのお金が行き交ったりする。若者層は、ポーカーのようなものをする。このごろはそのような部類の条件を

持った多くの形態の確率と偶然を結合して、自己中心に判断する宝くじと多くの種類の賭博が横行している。楽しみで終わるレクリエーション程度を越えて、財産を使い果たし、身代を食いつぶして廃人になる場合も、周辺でたくさん見るようになる。小さな手数で大きい値を得ることができるという挑戦は貴く見えるが、小さな汗で大きい価値を得る場合は古今東西、見つけることはできない。

人間の賭博の歴史はエデンから始まった。善悪の知識の木の実一回だけで、被造物の人間が創造主なる神様になることができるというサタンのうそは、選択の結果が決まっているトリック賭博に過ぎず、その結果は、人間の完全失敗に終わった。結局、賭博は自分自身と周辺を苦しめるという単純な原理と答えを与えたのに、人生のゲームは終わっていない。それは、最初の間をだまして、失敗の賭博に導き出したサタンが、今も二つに分かれた偽りの舌を人間に振り回すことなのに、悟ることができないからだ。結局、自らを統制できない人間の問題が古い慣習に導かれて迷う間に、今日も他人の苦痛を自分の成功にしようとする偽りの行動は、ひそかでありながら、執拗に起きている。

結局、賭博は自らの行動決定が困難な霊的問題だ。自分がするか、しないかを決めることができない背景には、必ず人間の失敗を誘導する強い者、サタンのだましが存在している。その時には、それより力強い霊的パワーを持ったイエス・キリストの力に頼らなければならない。したいことができないようにさせ、してはいけないことをするようにさせる暗やみの勢力は、ただイエス・キリストの御名とその権威の前でだけ屈服するからだ。むなしい選択で賭博に縛られた人々がいたら「真理があなたがたを自由にします」と言われたみことばどおり、人生をささげて、永遠のいのちを得る正しい選択に完全に入ってくることを期待している。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

\*相談したい方はこちらまでどうぞ